

1-1【第5学年研修】

PFC/PROMETAM 研修（第5学年）は2005年1学期、2005年3月5日から2005年6月26日にかけて実施された。今期研修は大統領予備選挙の影響のため、新学期開始後から数週間遅れて開始されることとなり、研修に必要な時間数を確保することが困難であった。とはいうものの、内容面においても運営面においても特に大きな問題が生じることはなく、概ねスムーズに運営されたと言える。以下はその報告である。

	2004年												2005年												2006年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
1～3年生研修		隔週実施(終了)																									
4年生研修							集中終																				
5年生研修									隔週実施																		
6年生研修														隔週実施(予定)													

1-1-1 研修状況

今期より研修の技術面を担当する東矢シニア隊員が研修当初から参加し、研修計画立案、研修視察時におけるアドバイスの実施等により、以前に比べ明らかに隊員の研修内容が改善された。東矢シニアは細部にわたって指示が明確、かつ対応が迅速であったため、研修における隊員の不安感や混乱等が軽減された。

また、授業分析の実施を通じて、PROMETAM がどのような授業を目指しているかが明確になり、関係者の間で目指すべき目標が明確になっていった。

運営面においては週ごとの定時連絡および週間予定表の配布により、事務局と隊員とのコミュニケーションが大幅に改善。隊員の不満も大きく軽減した。

週ごとの定時連絡および週間活動予定表の導入について

5月6日に実施された合同調整委員会終了後の会議において、定時連絡を実施することで隊員を含む関係者の合意を得た。これは毎週月曜日に隊員側からその週における活動予定を報告するとともに、シニア隊員からはPROMETAM事務局や教育省の動きなどを伝えることによって、相互のコミュニケーションの向上を図るものである。定時連絡の際に確認した内容は週間活動予定表に落とし込み、メーリングリストに流すことによって関係者間で周知を図った。

定時連絡については、必ず隊員側から連絡を入れ、必要に応じて再度シニア隊員からかけ直すという形式をとった。これは隊員側が一時的な情報の受け手に回ってしまうことを避けるためである。

もともとこの定時連絡のアイデアは、プロジェクトに対する隊員側からの関与が受け身であることを危惧した吾郷専門家の意見を取り入れたもので、隊員を管理するというよりも、必要な情報を共有することによる隊員のプロジェクトに対する理解と参加を促進するためのツールという位置づけのものである。したがって隊員側からの連絡・報告は欠かすことのできないものであった。また、週間活動予定表の作成は、情報のフィードバックおよび隊員相互の動きをそれぞれが把握する上でも重要な意味をもつものであった。

このシステムの導入によって、隊員は自分の活動をプロジェクトの動きの中に位置づけることが容易にできるようになり、ホンジュラスの教育改革の中における役割を少しは把握しやすくなったかと思われる。2005年度は教材の全国配布やそれにとまなう全国研修の実施など、教育分野における大きな動きがあったが、隊員との連携においてそれほど問題が生じなかった背景には、こうした地道な改善も効果があったと思われる。

実際の使用例

PROMETAM隊員週間活動予定表 Ver.1.1

2005年6月13日～19日

■日程表

Mayo	13	14	15	16	17	18	19	備考	
	Lunes	Martes	Mercoles	Jueves	Viernes	Sabado	Domingo		
Danli	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察	研修	終了時試験	最終日プロジェクト一貫与	
Günöpe	授業観察 (名倉隊員)	授業観察 (名倉隊員)	授業観察 (名倉隊員)	授業観察 (名倉隊員)	伊勢隊員ソナゲラ研修見学			伊藤隊員～14日まで不在 佐藤隊員火～金研修準備	
Ocotopeque	関谷 専門 家 懇 別 会	授業観察 (伊勢・川野隊員)	授業観察	伊勢・川野隊員ソナゲラ研修見学				持永隊員～14日まで不在 持永・川野隊員19日以降不在	
Sonaguera			授業観察			研修	終了時試験		
La Libertad				授業観察			終了時試験		
Nacaome				授業観察	授業観察	マテリアル研修 (コライ地区)	研修		コライ地区教育委員会の要請により、 教材講習を実施予定
INICE								ダンリ車両派遣予定	

2005/6/13

■全体共有事項

	項目	日時	内容
教材関連	教材全国配布状況	随時	教材全国配布の進行状況を確認したいと思います。ついては、各SEDEIにおける配布状況がわかれば、INICEまで連絡をお願いします。
教材関連	5年生用指導書付属問題集配布	今週中	以前お知らせしました5年生用指導書付属別冊問題集について、印刷が終了。無事INICEに届けられました。今週末までに各SEDE宛送付します。配布の際にはご協力よろしくお願いします。
広域プロジェクト	事前評価準備ミッション来ホ	6月14～17日	PROMETAM広域プロジェクトに関し、教育省との協議のため、日本からミッションが来ます。
MIDEH	MIDEH会議	6月22日	先週お知らせしましたMIDEH会議は6月22日に延期されました。
その他	INICEメールアドレス変更を検討中	6月以降に変更を検討	インターネット接続状況改善のため、プロバイダーの乗換を検討中。INICE関係者メールアドレスが変わります。詳細は後日お知らせします。

1-1-2 プロジェクトとしての活動

今期は通常の研修の他に、プロジェクトとしての活動に隊員の協力が必要であったため、隊員の負担は少なくなかったにもかかわらず、多くの隊員は必要性を理解し、積極的に協力してくれた。急な日程の変更等も含まれていたこともあり、一部には若干の不満が見られたが、専門家により隊員への説明が十分に実施されたため、活動の意義については納得してもらえたと思われる。なお、個々の活動についての詳細は既に3号報告書にて報告済みであるため、ここでは詳しくは述べない。

授業分析

下田現地コンサルタントが中心となり専門家およびPROMETAMスタッフとともに開発した授業分析ツールを用いて、PROMETAM研修を実施している5県6サイトの約60の小学校においてPROMETAMスタッフ6人および協力隊員によって実施。期間は4月上旬から2週間程度。当初プロジェクトスタッフのみでダンリ地区に限定した実施を予定していたが、データが不足することが判明したため、対象地域を拡大。急遽隊員に協力を要請することとなった。

各サイトにおける対象は、PROMETAM受講生および一般教員で4年生の担当者のうち一定数(4クラス)以上。それぞれPROMETAM教材配布前(4月)および配布後(9月)で2回ずつ実施した。

ただし、ダンリ地区に関しては当初の対象地域であったこともあり、直接プロジェクトスタッフが授業分析を実施し、隊員には特に協力を要請していない。

なお授業分析実施にかかるロジスティックは下田現地コンサルタントが担当した。

授業分析における隊員担当分一覧

地区名	ダンリ	グイノペ	オコテペケ	ソナゲラ (コロン県)	ラ・リベルタ (コマヤグア県)	ナカオメ (バジェ県)
調査校 (PROMETAM)	0	7	5	5	4	9
調査校 (一般)	0	8	5	5	4	8
合計	0	15	10	10	8	17

教材配布

4月から5月にかけて、PROMETAM 受講生を対象に第4学年生徒用作業帳を配布するとともに、配布が遅れていた四則演算練習用計算カードを限定的に配布した¹。

配布にあたっては、地区教育事務所に説明や支援を依頼するとともに必要に応じてプロジェクトから車両を派遣した。

合同調整委員会

2005年5月6日に開催されたPROMETAM 合同調整委員会終了後に、關谷専門家からPROMETAM 周辺状況について隊員に説明する機会を急遽設定した。また合同調整委員会においても隊員にオブザーバーとして出席を求めた。

これは教科書の全国配布および全国研修、広域プロジェクトの形成を控えて隊員との情報共有を進める必要があったためであるが、授業分析の実施や教材の配布にあたって隊員に協力を依頼する機会が増えたことに対するフォローアップの意図も兼ねていた。同時にこの機会を利用し、次回反省会の内容についてもあらかじめ隊員と話し合う機会を設けた。

1-1-3 研修結果

講義サイトおよび実施スケジュール

サイト名	県名	担当クラス数 下段は開講クラス	期間	時間数	講師
ダンリ	エル・パライス県	1 / 3	3月12日 ～6月19日	42	(田代芳恵)、下田あゆみ、 多田貴義
グイノペ	エル・パライス県	1 / 1	3月5日 ～6月26日	37	(佐藤奈々)、名倉那々子、 伊藤豪孝
オコテペケ	オコテペケ県	1 / 2	3月5日 ～6月25日	49	(右田真樹子)、持永めぐみ、 伊勢真希子、川野充子
ソナゲラ	コロン県	1 / 1	3月5日 ～6月19日	48	(上野美奈子)、石津美華、田 村道代、望月勇太
ラ・リベルタ	コマヤグア県	1 / 2	3月5日 ～6月18日	44	(八巻里佳子)、吉村智美、 梅田亜紀子
ナカオメ	バジェ県	1 / 3	3月5日 ～6月25日	34	林大樹、深澤宏美

()内の隊員は研修期間なかばにて任期終了のため帰国

¹ 第4学年担当者のみ対象。残りの受講生については第6学年研修時に配布。

大統領予備選挙の影響で開始時期が3月までずれ込んだため、6月末までの1学期中には隔週土日実施で18 齣 36 時間しか確保できない事が当初からの懸案事項であった。対策として考えられたのは -a 全教科の補講を実施、 -b 算数科のみ補講を実施、 算数科のみ時間を延長、 研修内容の削減、等である。前回反省会の際に PFC 事務局より一定期間、隔週ではなく毎週実施とすることで日数を増やす基本案が提示されていたが、各地区にて講師および受講生からの反対意見が多く、基本案通りの実施は困難な場合が多かった。

算数科のみの補講実施(-b)にあたっては受講生からの不満が出てくることが予想されたが、幸いダンリ、ソナゲラ地区においては受講生が比較的近隣から来ていること、受講生および PFC 地区コーディネーターが PROMETAM 研修スタイルに慣れており、かつ時間数確保の必要性を理解しているため、特に問題なく時間数を増やすことができた。なお、オコテペケ地区については遠方より来ている受講生および他クラスを担当する講師の都合などにより、日数は増やさず、時間数の延長で対応している。

グイノペ、ナカオメ地区においては研修時間数が大幅に目標時間数に満たない。グイノペ地区の場合は講師、受講生ともに遠方に居住しており、調整が困難であったためであり、ナカオメ地区においては以前からの受講生との合意に基づき、土曜日のみ毎週実施という変則的な実施形態となっていたので、日程調整ができなかったためである。

ラ・リベルタ地区に関しては、PFC 地区コーディネーターの判断により他教科の時間を一部振り替えてもらうという対応になったが、些か場当たり的な対応と言わざるを得ず、他教科との時間割調整において講師および受講生への連絡が行き届いていない等のトラブルがめだつた。

基本的にこうした時間割の調整は地区レベルに任されており、受講生との合意が必要であるとの PFC 規定もあるため、地区コーディネーターの姿勢と力量に依存する部分が大きく、なかなか改善し得ない点の一つである。

時間数確保に関するサイト別対応一覧

	ダンリ	グイノペ	オコテペケ	ソナゲラ	ラ・リベルタ	ナカオメ
対応	算数のみ集中補講実施	対応できず	算数のみ時間延長で対応	算数のみ集中補講実施	他教科の時間を一部振替	対応できず

カウンターパートとその業務遂行状態

サイト名	地区教育事務所	PFC コーディネーター
ダンリ	Dilma Nufio	Nimia Ardón
グイノペ	Henri Rodríguez	Zoila Aurora Herrera
オコテペケ	Rosa Margarita Pinto	Rosa Margarita Pinto
ソナゲラ	Luany Ramona Ulloa	Jose Agustín Murillo
ラ・リベルタ	Pedro Armando Machiado	Justo Pastor Orellana
ナカオメ	Pedro Jacinto Toscano	Margarita Campos

【地区教育事務所】

基本的に多くの地区において、ホンジュラス側の関係者は多忙でありながらも隊員に対して労力を惜しまず協力してくれる場合が多い。その中であって特にダンリ地区教育事務所長はほぼ毎回、研修会場に顔を出し、状況を確認。必要に応じて受講生へのフォローを実施している。

【PFC コーディネーター】

研修の運営について直接責任を負っているのが各地区の PFC コーディネーターである。これまでの研修を経て、隊員の役割や限界、それぞれの役割分担についてはよく理解してくれている。

一般に地区コーディネーターは地元において研修以外にも受講生との関わりが深いため、問題を顕在化させたがらない傾向がある。そんな中において高評価としたコーディネーターは、教材の配布や評価に対

する協力など、その目的を十分に受講生に説明し、必要な活動には協力を惜しまなかった。

講師（隊員）による総評（要旨）

県・地区教育事務所

ダンリ	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい配慮と支援があった。研修にはほぼ毎回出席。 ・地区教育事務所の研修企画に算数の研修時間を設けるなど、隊員の活動機会を提供。 ・台風接近時の日程変更の連絡も実施。計算カードなどの教材配布にも協力。
グイノベ	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会場に来ることは一度もなく、調整等は PFC 地区コーディネーターが実施。
オコテベケ	<ul style="list-style-type: none"> ・頻繁に研修を視察。授業観察にあたっては車両と運転手を手配。必要に応じて同行。
ソナゲラ	<ul style="list-style-type: none"> ・開始時試験には出席。相談にのり、助言を与えるなど協力的。
ラ・リベルタ	<ul style="list-style-type: none"> ・研修視察は一二回様子を見に来た程度。 ・教材配布にあたっては、受講生にその意図を説明したものの、配布時の支援は特になし。 ・会議や授業視察等で忙しく、オフィスにはほとんど不在のため、授業観察や教材配布は隊員のみ。必要に応じて INICE に配車を依頼。受講生の多くが担当地区外であることも影響している。 ・PFC コーディネーターと連絡が取れない時は、受講生に連絡事項の伝達等を代行。
ナカオメ	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に協力的。学校見学にも同行

PFC コーディネーター

ダンリ	<ul style="list-style-type: none"> ・講習時間確保に際しては協力してくれたが、日程変更の連絡に不備があった。 ・算数科の負担が他教科に比して重いことに対する受講生の不満が若干存在している。隊員活動に関する受講生への説明をもう少し実施することを希望。 ・研修視察はほぼ毎回実施。
グイノベ	<ul style="list-style-type: none"> ・土日のどちらかは授業を見学、講習生のモチベーション維持にも配慮。
オコテベケ	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙にもかかわらず、頻繁に研修を視察。非常に協力的。受講生の意見をとりまとめ、研修運営における橋渡しの役割を担ってくれた。
ソナゲラ	<ul style="list-style-type: none"> ・隊員活動に対する理解は深く、授業観察の際には車を出してくれる等、様々な形で支援してもらっている。開始時試験には出席。最終時試験の際は他地区の講義と重なったため出席はできず。
ラ・リベルタ	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会初日のブリーフィングの打合せが実施できず、隊員が用意した原稿を読み上げたのみ。 ・1度授業参観をしたが、短時間で退席。終了後も特にアドバイス等はなかった。 ・授業時間の確保について、不足分を他の講師からもらうのには疑問を感じる。また時間割変更が講師と受講生に周知されておらず、ダブルブッキングが一度あった。最終テストの日時も受講生に連絡されていなかった。 ・講習会と会場である高校の保護者会とが重なり、机と椅子が不足した状態で授業を行った。（他のクラスでは床に座って実施）。 ・最終日には来ず、教室の鍵は閉まったままであった。他の教室がたまたま鍵の閉め忘れで開いていたため、最終試験は実施できたが、もう少ししっかりと時間割や会場の調整、運営をしてほしい。 ・受講生は成績の結果を知らされていないとのことであった。仕事の役割を再度確認したい。
ナカオメ	<ul style="list-style-type: none"> ・協力的。 ・台風が来た時に授業がつぶれたが、次の週にコマを1時間確保してくれた。 ・授業数で足りない時間を日曜日に確保してくれた。

PROMETAM 事務局に対するコメント（要旨）

[運営面]

ダンリ	<ul style="list-style-type: none"> ・合同会議や学力試験の日程など重要事項の連絡は早めに欲しい ・モニタリングや計算カードについての日程調整、連絡などを早めにして欲しかった。講習準備期間に急に別の仕事が入るのは負担が大きい。教材配布後のモニタリングも急に日程が決まるのではないかと予想される。こちらモニタリングに協力できることは最大限協力したいが、その日程は講習最優先にしていきたい。²
グイノベ	特になし
オコテベケ	評価に関わるモニタリングや急な会議などが入ったため、日程的にも体力的にも厳しかった。常に講習会や授業観察を計画的に行っているため、それらを考慮して日程を早めに知らせて欲しい。
ソナゲラ	<ul style="list-style-type: none"> ・定時連絡により全体の状況把握や活動について容易に把握できるようになった。 ・重要事項についても電話連絡があるのでありがたい。 ・INICE 側に要求、コメントをする一方ではなく、隊員の側も改善していかなければいけない。チーム一丸となってプロジェクトが良い方向に向かうようにしたい。 ・専門家、シニア隊員によるサイト訪問は共通理解を形成する上で意義があった。 ・各地域の情報の交換は、多少問題があったが研修を重ねるうちに解決しつつある。 ・会議のスムーズな進行には隊員側の努力も必要
ラ・リベルタ	<ul style="list-style-type: none"> ・定期連絡によってコミュニケーションが改善された。 ・緊急の連絡が電話とメールの両方で伝達される点も以前に比べて改善が見られる。ただし、移動が伴う会議や行事に関しては、移動時間も考慮して事前に連絡が欲しい。 ・時間割に関する問題が多いため、支援が必要。
ナカオメ	伝達が改善。週1回の連絡は良い。

[技術面]

ダンリ	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で指導書の訂正、新しいカリキュラムについての説明を授業時間の中で行うことは、非常に負担に感じられた。 ・各支部から指導書訂正の報告があったときは、先生達にわかるような印刷物にして、全体に送ってもらいたい。授業で訂正したもので、授業観察に行った際、訂正されずに教えている場面を何度か見たので、訂正表は必要と思われる。³ ・新しいカリキュラムでは、どの内容がどの学年に移ったかを先生達自身が把握するのは難しい。きちんとしたスペイン語の系統図を配布するべき。それを各支部に任せるのではなく、統一した印刷物を作ってもらいたい。⁴
グイノベ	特になし
オコテベケ	質問への回答が素早く、講習会に生かすことができた。実際に講習会を見てもらい、客観的なアドバイスを得、その後の講習会に反映することが出来た。
ソナゲラ	<ul style="list-style-type: none"> ・指導において、不明な点や疑問点を専門家やシニア隊員に聞くことができ、大変心強い。 ・ギアの内容を講習で全て扱うことは難しいので、その单元の中でも抑えておかなければいけないポイントや扱う優先順位などを教えてほしい。

² 同地区における授業分析はプロジェクト・スタッフにより実施。授業観察は業務の一環として全受講生対象に実施することを推奨している。

³ 指導書の訂正については技術担当シニア隊員がMLを利用し隊員に周知。訂正表については量が多いため対応していない。

⁴ 新カリキュラム対応表は専門家の作成した日本語版のみを隊員に配布。スペイン語版については専門家が業務多忙で対応できないため、必要に応じて隊員間で役割分担する等で対応して欲しい旨を連絡していた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会の中でどのように指導法を取り入れていったらよいかのアドバイスの機会が欲しい。 ・準備会での講習で授業のポイントが絞れた。ギアの誤り・改善点などについてもコミュニケーションをとりやすくよかったと思う。 ・各地域でのレベルの差があり、どのように統一していくかが課題。
ラ・リベルタ	<ul style="list-style-type: none"> ・指導において、不明な点や疑問点を専門家やシニア隊員にお聞きすることができ、大変心強い。 ・ギアの内容を講習で全て扱うことは難しいので、その单元の中でも抑えておかなければいけないポイントや扱う優先順位などを教えていただければと思う。 ・講習会の中でどのように指導法を取り入れていったらよいかアドバイスをいただける機会を作ってほしい。
ナカオメ	<ul style="list-style-type: none"> ・必要時には東矢シニアに連絡。迅速に回答があった。

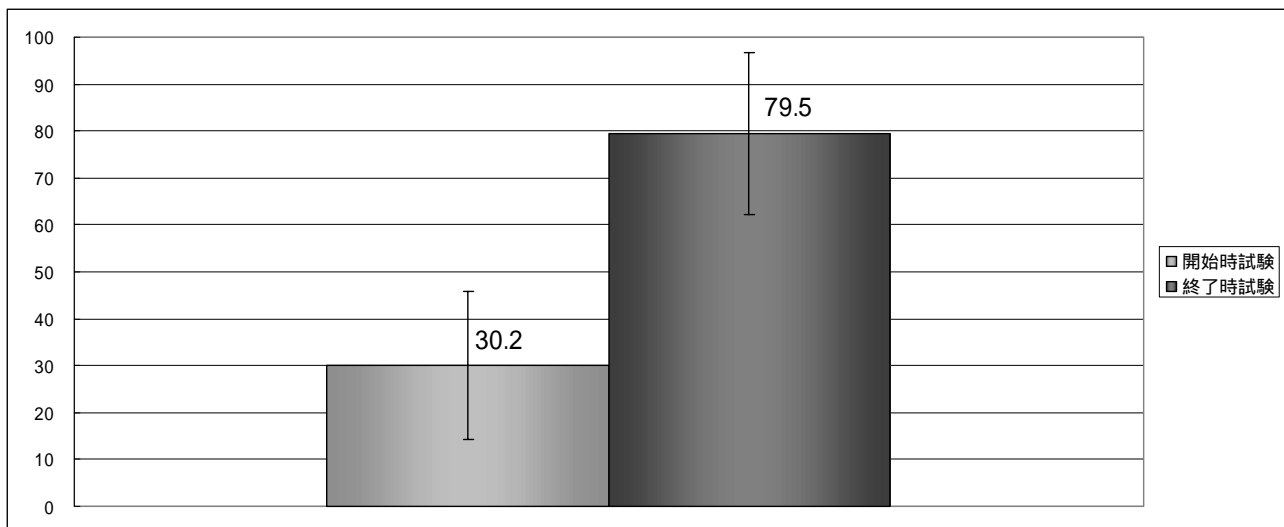
教室物理的環境

サイト名	黒板	チョーク&黒板消し	机 & 椅子	照明	室温	騒音	トイレ
ダンリ	OK	NO	OK	OK	OK	OK	OK
グイノペ	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK
オコテベケ	OK	NO	OK	OK	NO	OK	OK
ソナゲラ	OK	NO	OK	OK	OK	OK	OK
ラ・リベルタ	OK	OK	OK	OK	OK	OK	NO
ナカオメ A	OK	NO	OK	OK	NO	NO	OK
ナカオメ B	NO	NO	OK	OK	NO	NO	OK

試験結果

地区ごとの詳細は添付資料（スペイン語）を参照。ここでは全体について述べる。

試験結果推移（平均差および標準偏差）

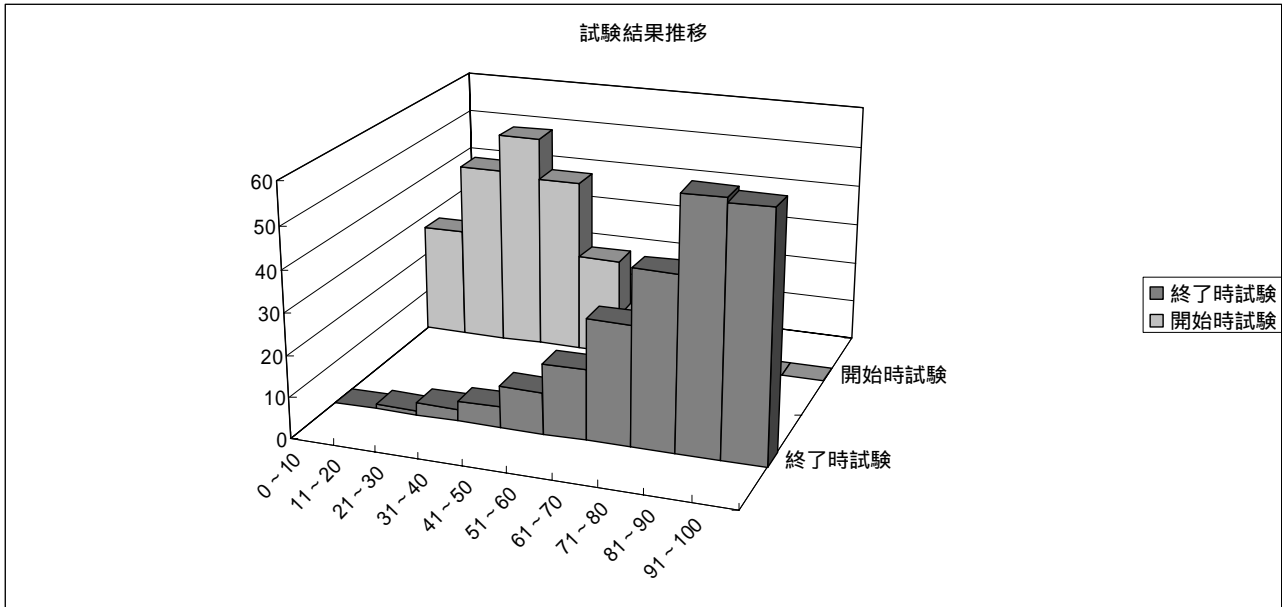


	平均	標準偏差
開始時試験	30.2	15.8
終了時試験	79.5	17.3

t検定(対応あり)
仮説平均値の差= 0

	平均差	自由度	t値	p値
Initial, Final	-49.667	209	-41.170	<.0001

試験結果推移 (ヒストグラム)

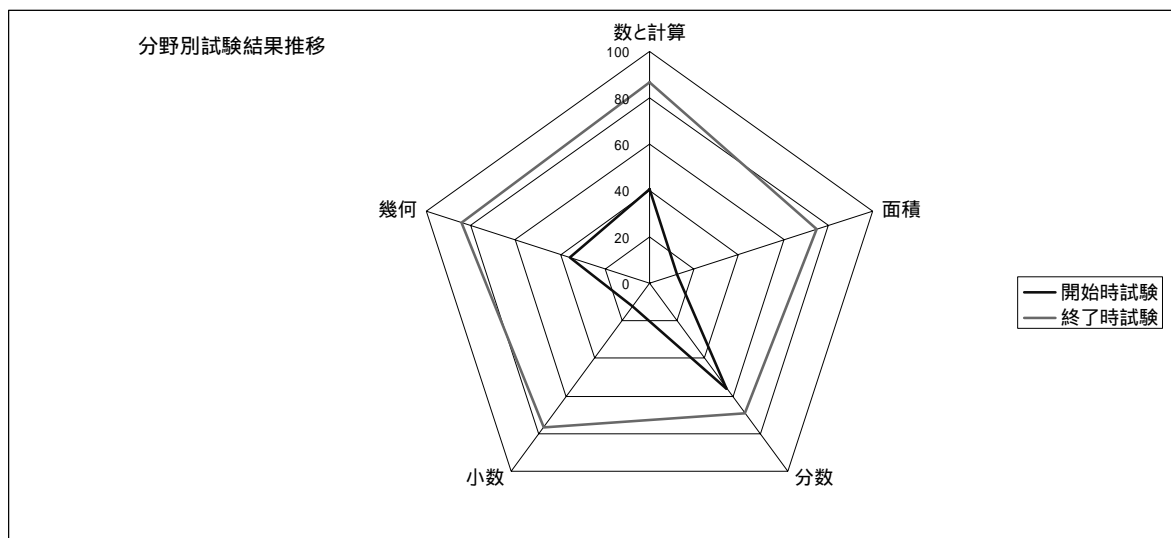


	0~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81~90	91~100
開始時	27	44	53	43	24	10	7	2	0	0
終了時	0	1	3	5	10	17	29	42	60	59

サイト別平均点および標準偏差

	ダンリ	グイノペ	オコテペケ	ソナゲラ	リベルタ	ナカオメA	ナカオメB
開始時平均	34.7	31.7	31.9	21.5	23.9	30.7	37.9
終了時平均	83.6	69.8	73.1	70.1	68.4	94.5	92.7
点数伸び率(開始時比)	140.8%	120.5%	129.7%	225.9%	186.7%	208.0%	144.3%
標準偏差(開始時)	12.4	15.4	16.6	13.4	12.4	16.0	17.3
標準偏差(終了時)	9.5	16.6	15.9	18.9	17.1	8.0	6.9
偏差値平均(開始時)	52.9	51.0	51.1	44.5	46.0	50.3	54.9
偏差値平均(終了時)	52.3	44.4	46.3	44.6	43.6	58.7	57.6
偏差値伸び率	-1.0%	-12.9%	-9.3%	0.1%	-5.3%	16.6%	4.9%

分野別試験結果推移



	数と計算	面積	分数	小数	幾何
開始時試験	40.5%	12.1%	55.8%	12.5%	35.4%
終了時試験	86.7%	75.2%	69.7%	76.5%	83.7%

開始時と終了時の試験結果を見ると平均点で実に 50 点近い点数の向上がみられる。また、ヒストグラムを参照してわかるとおり、前回わずか 2 名であるが存在していた 10 点未満の受講生は居なくなり、20 点未満の受講生も 1 名のみである。補習（追試験）はグイノペ地区、オコテペケ地区でそれぞれ 1 名、最終成績で基準点に満たない受講生がいたため実施した。

なお、前回同様、点数伸び率および偏差値を算出しているが、ここではあくまで参考データとして記載する。一部のサイトにおいては、他に比べ試験対策をより重視した授業を実施しており、データとしての客観性に疑問があるためである。

プロジェクトとしては、試験の実施が研修の効果を客観的に図る指標としての位置づけであることから試験対策を基本的には推奨していない。教員の学力向上に偏重することなく、あくまで教員の指導力を伸ばす研修が望ましいとしている。しかしながら試験を実施する以上、その影響は避けられず、限られた時間にて研修効果を上げるための内容の絞り込みの必要性、ホンジュラスの学校文化の影響、教員のモチベーション向上等を考慮すると試験対策もやむをえないとの意見もあり、こうした授業スタイルを否定まではしていない。

受講生出席状況および最終成績

サイト名	遅刻	早退	欠席	中抜け	受講者数	合格	不合格	欠席	最終成績平均
ダンリ	38	4	12	5	35	35	0	0	83.9%
グイノペ	13	1	38	0	29	29	0	0	79.1%
オコテペケ	7	0	14	2	27	27	0	0	83.0%
ソナゲラ	2	0	17	1	44	44	0	0	85.2%
ラ・リベルタ	33	0	20	8	22	22	0	0	78.8%
ナカオメ A	0	0	29	0	32	32	0	0	96.3%
ナカオメ B	0	0	31	0	37	37	0	0	94.1%

	93	5	161	16	226	226	0	0	85.8%
--	----	---	-----	----	-----	-----	---	---	-------

前述の通り、一部地区にて補習を実施したが、最終的に全受講生が合格基準に達した。前回に引き続き最終成績の標準化は実施していないため、最終成績には若干のサイト間格差が存在している。

ソナゲラ地区においては、今回からクラスを便宜上3つに分け、それぞれのクラスを一人の隊員が担当する形式とした。これは同地区の受講生が40名を超えているため、1セッションでは指導が行き届きにくいとの意見を考慮したためである。同地区の学力レベルは全国でも最も低いグループに属し、効果的な研修のためには個別に近い対応も要求されることがある。なお、PFC研修上はあくまで1セッションとしての扱いであり、各クラス間の研修内容は統一する必要があるため、クラスの分割にあたりクラス間の学力差がないようにするとともに、3クラスの授業内容および進度をほぼ同一とするよう配慮を求めた。

講師（隊員）による受講生についてのコメント要旨（出席状況・学習態度）

ダシリ	遅刻者が多く、途中退席もあった。また病欠も多く、欠席者には補講を行った。講習生は授業中熱心に勉強し、授業態度もよかった。わからないところがあると講習生同士で教えあう場面も見られた。
グイノベ	欠席した授業分の宿題は必ず提出するなどの意欲的な姿勢が見られた。
オコテベケ	欠席時には補講で対応。学習態度は、受講生により差はあったものの、ほぼ良好。しかし、講習開始時間より5分から10分後にならないと、講習を受ける姿勢が整わないという問題もあった。また、テスト時のカンニングが目についた。
ソナゲラ	出席率はよい。ただし、一時間目の授業延長による開始時間の遅れがあった。授業態度は、暑いにもかかわらず集中して受講。今回から3クラスになり、各1クラスを受け持つようになった。受講生とのコミュニケーションも以前よりまして取れた。一クラス一人担任になったため、小テストでのカンニングの問題があった。小テストは簡単にしてカンニングをしないようにしたが、完全にカンニングを無くすことはできなかった。（石津） 出席状況では妊娠・出産等で長期欠席があり、コーディネーターと相談し対応した。学習態度では暑い中、一生懸命参加していた。プラクティカの点数をタレア・予習プリントなどに明記したので自分の持ち点がわかり心配が減ったようだ。今回より3クラスで講習会を行ったが、1クラス14人～15人のためか、より積極的に参加していた講習生がほとんどだった。（田村） 出席に関して特に問題なし。とても、熱心に授業をうけている。（望月）
ラ・リベルタ	交通事情や病気による遅刻・欠席以外は、毎回ほぼ全員が出席。ただし他の教科の宿題を提出しに席を外したりすることがしばしばある。講習開始時に、中抜けは減点対象である旨通達したが、徹底していない。席を立ったらその都度確認が必要と思われる。欠席許可については口頭での確認のみ。PFCコーディネーターへの確認を徹底する必要がある。 授業では、協力的な姿勢で授業に参加している。また、わからないところは質問をしたり、例を出して応用的な発問をしたりするなど、発言が活発で意欲的である。クラスメイトの発言に対し、ほかの受講生が自分の意見を言えるような雰囲気があるのも理解を深める上では、とてもよい環境であるように思う。やや教室が騒がしくなった際にも、受講生の側から「静かに！」という声が出され、軌道修正ができるのも助かっている。朝に宿題を回収するようにしたため、授業中に算数の宿題をすることはなくなったが、一部他の教科の宿題をしている受講生がいる。しっかりと授業に集中するよう注意し、他のことをさせる隙を与えないような授業を展開できるよう、工夫したい。
ナカオメ	出席状況・・・通常は良いが、学校行事が講習日にぶつかると、講習を休んで自分の学校へ行く先生が続出する。先生方の言い分は「校長がNOという講習へ行けない」ということだ。PFCの方で「そういう時は小学校を休むPERMISOを出す」という制度にはならないか。 学習態度・・・前回の講習会よりも改善された。学校見学に行ったことで、生徒との信頼関係ができ、

授業がやりやすくなった。授業中の生徒からの発言も活発になった。

講師に対する受講者の評価

第5学年研修(2005年1学期)

	1. コース全体の構成	2. 目的が明確	3. 指導法が適切	4. 難易度が適切	5. 評価が適切	6. 課題(含む宿題)が適切	7. 講師の授業準備が十分	8. 教材が適切	9. クラスマネジメント	10. コミュニケーション	全体
ダンリ	3.0	3.0	2.9	3.0	2.8	3.0	3.0	3.0	2.9	2.8	2.9
ゲイノベ	3.0	3.0	3.0	3.0	2.8	3.0	3.0	2.9	3.0	2.8	2.9
オコテベケ	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	3.0	3.0	2.9	2.5	2.9
ソナゲラ	2.9	3.0	2.9	2.9	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9
リベルタ	3.0	2.9	2.9	2.8	2.9	2.8	3.0	2.9	2.8	2.9	2.9
ナカオメ A	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
ナカオメ B	3.0	2.9	3.0	2.9	2.9	2.9	3.0	3.0	2.9	3.0	2.9
	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	3.0	3.0	2.9	2.8	2.9

ABC 評価をそれぞれ A=3, B=2, C=1 として 3 点満点の数値に換算。

懸案となっていた「評価」にかかる項目(5)については、各学期開始時に PFC コーディネーターを通して基準を提示するとともに要請があれば点数を開示する等の対応により、ほとんど不満が見られなくなっている。コミュニケーション(10)については日本人が講師を担当する以上、仕方のない部分だといえる。現時点で語学に関し、研修実施上問題があるとみなされる隊員はいない。

1-1-4 研修反省会

第5学年研修終了後の2005年7月4日から5日にかけて、関係者を集め INICE にて研修反省会および次回研修準備会議を実施した。以下はその概要である。

概要

【名称】2005年度第1学期 PFC / PROMETAM 研修(第5学年) 反省会

【目的】

R/D 記載事項に従い、研修結果および運営上の問題や採点基準等について、ホンジュラス側を含む関係者間で共有し、次回に生かすことを目的とする。

研修で実施した取り組みや、成果などを明らかにし、共有することにより、次回研修に生かすと共に、相互の研修レベル向上を図る。

次回研修会実施にあたり、研修授業の内容を標準化する。また、隊員全体で研修レベル向上に取り組

む姿勢を形成する。

【内容】

研修反省会： 研修で実施した取り組みや、成果などを明らかにし、共有する。

次回研修準備： 次回研修実施にあたり、研修の標準化を図るために基準となる実施内容を PROMETAM にて作成し、内容について隊員を交えて検討する。

業務関連の打ち合わせ： PROMETAM 全体の共通理解事項の確認（SEDE 運営、モニタリング等）
今後の活動について

【参加者】

- ・ PFC 局長および地域、地区コーディネーター（7月5日のみ）
- ・ 配属先県および地区教育事務所長（7月5日のみ）
- ・ 青年海外協力隊 PROMETAM 隊員
- ・ 青年海外協力隊シニア隊員
- ・ ボランティア調整員
- ・ プロジェクトリーダー
- ・ PROMETAM 専門家

プログラム

月 日	時間	活 動 内 容	担 当	場 所	
第一部(協力隊のみ)					
7月4日(月)	9:00～9:30	1. 挨拶およびPROMETAM・広域の現状について	西方・吾郷	INICE	
	9:30～10:00	2. 5年生最終試験結果およびアンケート結果発表	佐藤		
	10:00～11:30	3. 次期研修会留意事項、研修共有化手法発表他	東矢		
	11:30～12:00	4. 反省会事前打合せ	佐藤・東矢		
	12:00～13:00	昼食			
	13:00～13:30	5. 次回授業分析および学力試験実施に係る協力依頼	下田		
	13:30～14:00	6. 教材解説(制作側の意図および質疑応答)	阿部		
	14:00～15:00	7. PROMETAM終了後の活動について	佐藤・東矢・清水		
第二部(関係者全員)					
7月5日(火)	10:00～11:30	感謝会(佐藤奈々隊員)	Diana, UPNFM	UPN	
	11:30～13:00	昼食		INICE	
	13:00～13:30	1. 第5学年PROMETAM/PFC講習結果報告	佐藤・東矢		
	13:30～14:10	2. プロジェクト評価(授業分析)報告	下田		
	14:10～15:00	3. 反省会(グループワーク)			
	15:10～16:00	4. 反省会(まとめ)			

【実施内容】(詳細は議事録参照)

初日(日本人関係者のみ)

1. 關谷専門家帰国に伴う PROMETAM 体制および広域の現状について。
2. 5年生最終試験結果およびアンケート結果の発表
3. 6年開始時テスト検討、次期研修会留意事項、研修共有化手法発表他
4. 翌日に予定されているホンジュラス側関係者との反省会における討議事項の事前すりあわせ
5. 次回授業分析、教員・児童向け学力試験の実施に係る協力依頼
6. 次回6学年研修使用教材における作成側の意図の説明。
7. 隊員間での合意形成。
 - ・ 3学期における研修 (complementario) の実施について(後述 1-4-1 参照)
 - ・ 研修教材・手法の取りまとめについて

二日目（関係者全員）

1. 隊員から提出されたモニタリングや試験データ、授業観察等のデータをまとめた研修報告
2. プロジェクト評価時に実施された授業分析の結果報告および次回授業分析（教材配布後 9～10 月頃を想定） 教員・児童向け学力試験の実施に係る協力依頼
3. 反省会についての確認

出席状況

	ダンリ	グイノペ	オコテペケ	ソナゲラ	リベルタ	ナカオメ
隊員						
PFC 本部事務局						
PFC 地区調整官			×（兼任）		×	
県教育事務所		×		×	×	×
地区教育事務所		×	×	×		代理

県および地区教育事務所に関しては出張費が出ないため、任意参加。オコテペケおよびソナゲラは遠方のため参加できなかった。

直接研修の運営を担当する PFC 関係者はほぼ全員出席したが、もっとも問題の多かったリベルタ地区のコーディネーターは残念ながら欠席。当日の議事録および報告書は別の機会にシニア隊員から手渡した。

教材のとりまとめについて

プロジェクト開始時から現在に至るまで、それぞれのサイトにおいて作成されている教材や授業案などの研修資料の取りまとめについて、反省会の機会を利用し、隊員間で話し合ってもらった。これは主として後続の隊員における PROMETAM の知的資産の継承を目的としたものであるが、今後プロジェクトの広域化を踏まえ、他国関係者にも活用してもらうことも視野に入れたものである。

これまで PROMETAM の資産として、研修手法や教材を形にして残そうとする動きはあったが、散発的なものに終わっていた。今回の取りまとめにあたっては既に東矢シニア隊員の提案により、今期研修より研修手法共有化のためのフォーマットが採用されて活用されていたこともあり、併せて作成教材の共有化フォーマットを作成し、写真と共に掲載することで合意に至った。

取りまとめにあたっては全体のフォーマットおよび教材の共有化フォーマットの作成と取りまとめを望月隊員（16 年度 1 次隊ソナゲラ地区配属）が担当、研修手法共有化フォーマットの取りまとめはこれまでどおり東矢シニアが担当することとした。